

# 段ボールカメラ・バージョンアップ

村田憲治@山県高校

土肥さんが紹介してくれた段ボールカメラ（サークルニュース p.4228）を5台作り，文化祭のクラスの手組みで「手作りカメラ写真展」をやってみました。

100円ショップで売っている老眼鏡のレンズと段ボール箱で作った粗末なカメラで驚くほど鮮明な写真が撮れることに生徒さんたちは大変驚き，面白がってました。ともかく，㈱リコーの「BLUNEO ペーパーF」という感熱タイプのブルーコピー感光紙の発見が決定的でしたね。アイロンで現像できるなんてホントに衝撃的でした。

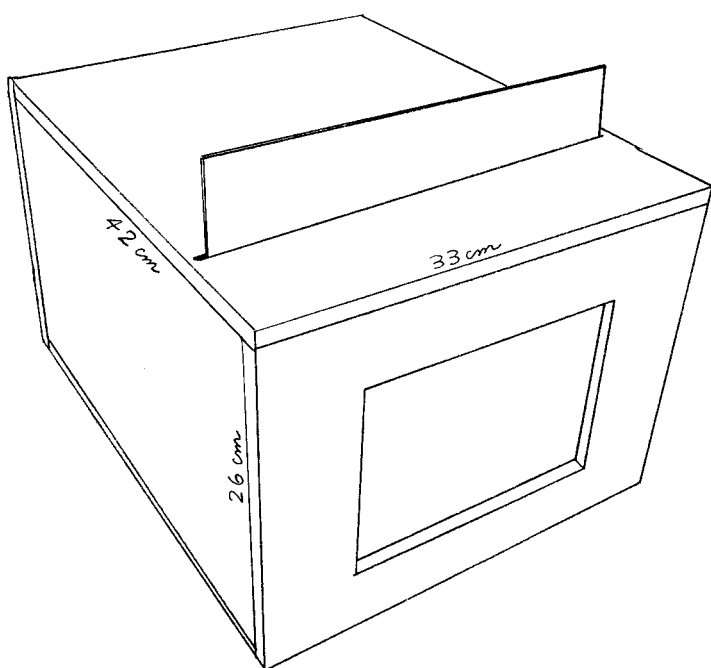
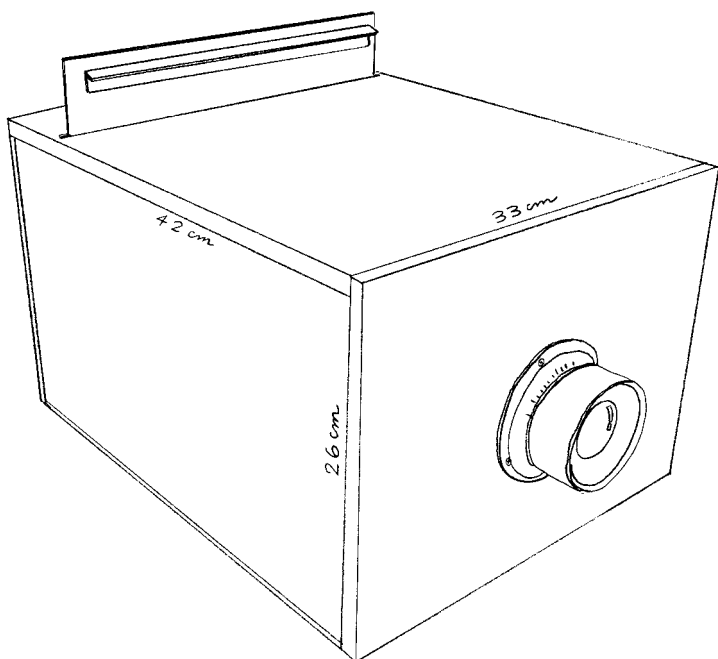
## 球面収差で周辺部がボケる

しかし，なるべく大きな写真が撮りたいと思ってA4の感光紙（250枚で¥1,580）を使ってみたところ，球面収差で周辺部がボケていることに気がきました。小さめの紙ならボケている周辺部が写らないのでB5くらいを使った方が良かったのかもしれませんが。まあ，ボケててもそれなりに味のある写真になりますからいいんですけどね。

文化祭後，以前誰かにもらった口径40mm，焦点距離360mmのNikonのレンズがあるのを思い出して，図のような本格的(?)なカメラを作ってみました。

レンズが重いので，本体は厚さ12mmのコンパネを丸ノコで切ってガッチリしたものにしました。

カメラの後部に図のような四角い穴（ファインダー）を明け，上部の板に5mmほどのスリットを作りました。このスリットに，半透明のプラ板を入れてファインダーを覗き，構図を決めます。今回は上部の板を固定してしまいましたが，この板を前後に動かせるようにすればピント合わせもできるわけです。



## さすが Nikon のレンズだ！

構図が決ったら半透明のプラ板を抜き、  
リコーの感光紙を貼った黒いプラ板を差し込  
んで撮影開始です。

昔の写真屋さんみたいでしょ。(^-^)

絞りは開放で1時間くらい露光して撮った  
写真が下のものです。周辺部の光量不足や多  
少の球面収差からくるピントの甘さがありま  
すが、さすがに Nikon のレンズです。老眼鏡  
とはひと味違いますなあ。ははは。

思い切り絞れば、普通の写真用印画紙を使  
って撮影できるかもしれません。挑戦の価値  
は十分あります。

でも、いきなりボジの写真が撮れるのが今回使ったリコーの感光紙の魅力なんですけどね。

「BLUNEO ペーパーF」の情報→ <http://www.ricoh.co.jp/PRODUCT/diazo/bluneo/option.html>

下の写真をもっと鮮明に見たかったら→ <http://physics.omosiro.com/>

